

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT

米

田植え前の準備

農業経営支援課 山村



苗の準備

育苗中のかん水

- ・緑化期以降は根の呼吸も活発になります。この時期にかん水が多すぎると床土が過湿となり、根の呼吸が妨げられてマット形成が不良になります。育苗初期のかん水は、午前中に1回、十分に行いましょう。
- ・苗が大きくなる育苗後期には、1日1〜2回を目安に行いましょう。
- ・**夕刻のかん水は、温度低下や夜間の呼吸を妨げる原因となるため避けましょう。**
- ・風により育苗箱の隅が乾きやすくなるため、板などで風よけを作るか、その部分だけにかん水するのがポイントです。

本田の準備

- ・基肥は入水前に施用し、十分に混和しておくことが重要です。
- ・代かきは田植えの2〜3日前を標準としますが、砂質土では1日前、重粘土では3〜4日前を目安に、土質に応じて調整しましょう。

田植え前の箱施用剤による省力防除

- ・田植え前に箱施用剤を散布しておくことで、その後の防除作業の省力化につながります。必ず実施しましょう。

【ウンカ対策】発生数が増えてからでは増殖を抑えることが難しいため、長期間効果が期待できる箱施用剤『フルスロツトル箱粒剤』を使用し、発生初期からしっかりと抑え込みましょう！

ジャンボタニシ防除

- ・ジャンボタニシは水温が15℃以上になると活動を始めます。田植え直後から初期生育にかけて、活動が確認されたタイミングで防除するのが最適です。

- ・移植後3週間頃（茎が固くなる頃）まで被害が出るため、散布の遅れに注意しましょう。
- ・薬剤は『スクミノン』を使用し、10a当り2〜4kg使用しましょう。（使用回数2回まで）
- ※散布後7日間は、落水やかけ流しをしないでください。

- ・水口周辺や深水になりやすい場所は被害が多いため、丁寧に散布しましょう。